

氏名	窪田 淳一
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 4828 号
学位授与の日付	平成 25 年 9 月 30 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目	Mortality rate of patients with asymptomatic primary biliary cirrhosis diagnosed at age 55 years or older is similar to that of the general population (55歳またはそれ以上の高齢で診断された無症候性原発性胆汁性肝硬変患者の死亡率は健常人の死亡率と同等である)
--------	--

論文審査委員	教授 土居 弘幸 教授 荻野 景規 教授 八木 孝仁
--------	----------------------------

#### 学位論文内容の要旨

【諸言】非症候性原発性胆汁性肝硬変(a-PBC)の生命予後(非症候性原発性胆汁性肝硬変の診断を受けた年齢で、一般の死亡率と比べて違いはあるか)

【方法】1980年から2004年の間に岡山大学とその関連病院でa-PBCと診断された308人の患者さんにつき、手紙・電話なども用い詳細を検討した。生存の統計を標準化死亡比と照らし合わせ、年齢・性別を合致させ比較した。年齢層については診断時の年齢中央値が56歳であり、55歳未満と55歳以上の2群に分類した。

【結果】若年者群での死亡は肝不全によるものが多いが、高齢者群においては肝不全を起こす前に他の原因で死亡することが多い。

【考察】種々の疾患で、診断年齢の違いで生命予後が異なってくることが言われている。a-PBCの場合、高齢者であれば診断されても生命予後が一般の方とほぼ変わらない。

【まとめ】高齢者におけるa-PBCの生命予後は一般と比較しても変わりがない。

#### 論文審査結果の要旨

1980年～2004年の間に無症候性PBCと診断された308例の予後評価に関するコホートスタディである。平成18年度の日本人のSMRをコントロールとした統計解析は、疫学的に問題はあるものの、ある可能性を示す結果となったとは言える。また、若年者群、高齢者群に分類した分類方法は、臨床現場で本研究結果の活用を考えると問題があることは否めない。

しかしながら、多数の無症候性PBCコホートスタディにより、今回得ることが出来た結果は、今後の無症候性PBCの予後評価に関する研究に大きく道を開くものと考えられる。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。